

照会先：

医政局医事課医師臨床研修推進室

課長補佐 宮本

主 査 森川

電話 03-5253-1111

内線 2568、2563

平成18年5月23日

平成17年度「臨床研修に関する調査」中間報告の概要 (研修2年次生の進路について)

厚生労働科学研究費補助金研究「新医師臨床研修制度の評価に関する調査研究」班及び「卒前教育から生涯教育を通じた医師教育の在り方に関する研究」班において、臨床研修に関する調査を実施しているところであるが、この度、研修2年次生の進路に関する中間報告を作成した。

調査票の回収中であるが、本中間報告は、参考として研修2年次生の進路を中心に取りまとめたものである。追って取りまとめる最終報告と確定数等が異なるため、本中間報告の利用に際し、注意が必要である。

I 調査の概要

1. 調査目的

新医師臨床研修制度の効果等を検証・分析するための基礎となるデータを収集するため、臨床研修病院及び研修医に対し調査を行うもの。

2. 調査対象

単独型及び管理型臨床研修病院

単独型相当及び管理型相当大学病院 (合計で849施設)

当該病院の研修プログラムに在籍する臨床研修医

(1年次 7,526人、2年次7,344人 計14,870人)

3. 調査内容

共通質問 (全病院、全研修医 (1年次、2年次))

・研修の満足度、研修修了後の進路 等

追加質問 (2年次研修医5人に1人)

・知識、技術等の修得状況 等

4. 実施時期

平成18年3月 (配布)

5. 調査方法

病院用と研修医用の調査票を各病院に郵送し、研修医用の調査票を病院で取りまとめたのち、病院用調査表と合わせて郵送で回収した。

平成18年4月11日時点での2年次生研修医回収数2500 (34.0%) で、2年次生の研修修了後の進路に関する項目について集計を行った。

6. 集計対象者の概況

性別	人数 (人)	割合 (%)
男性	1,613	64.5
女性	863	34.5
不明	24	1.0
計	2500	100.0

年齢 平均27.7歳 (標準偏差 2.6歳)

II 調査結果の概要

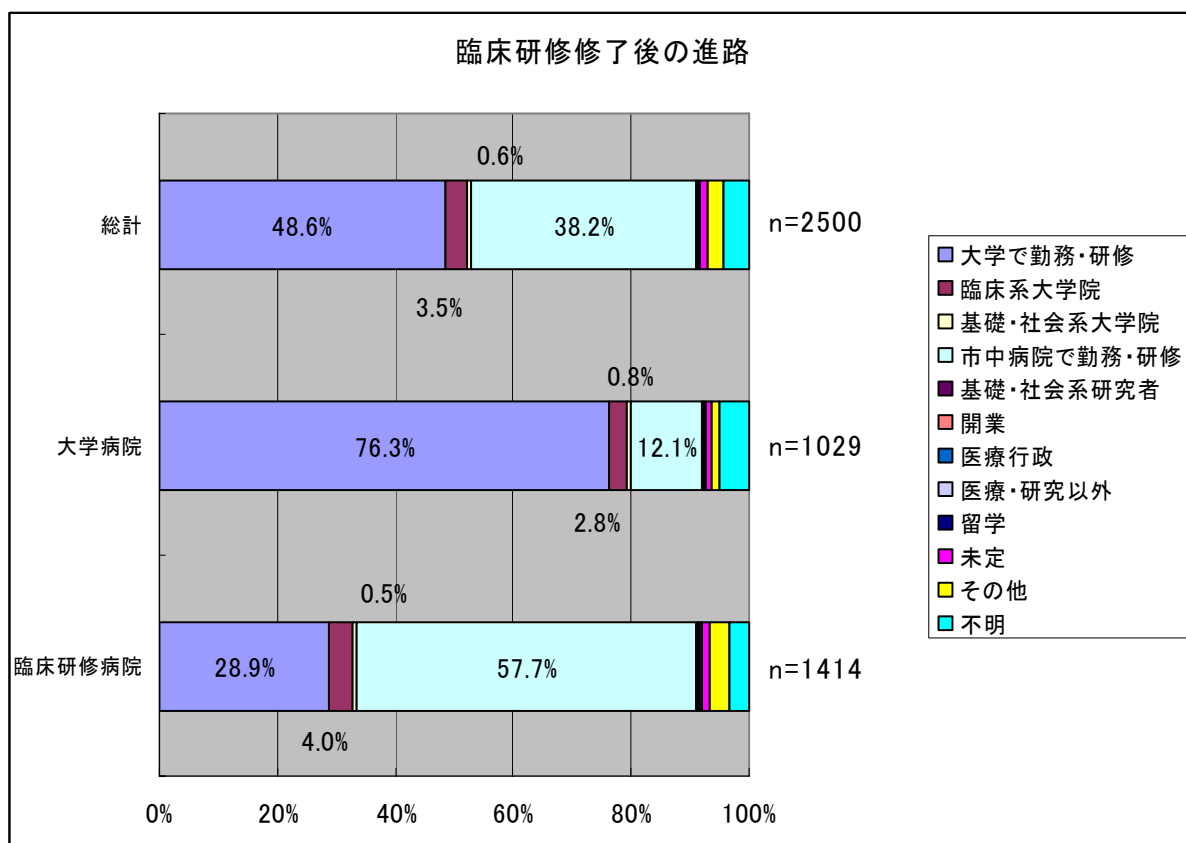
1 臨床研修修了後の進路について

(1) 臨床研修修了後の進路

臨床研修修了後の進路について尋ねたところ、大学病院で勤務・研修を行う者は48.6%、市中病院で勤務・研修を行う者は38.2%であった。

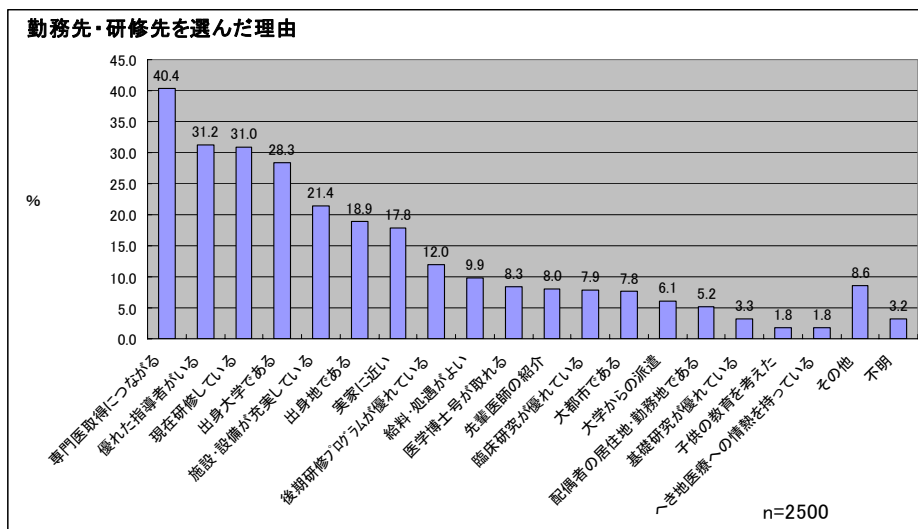
大学病院で臨床研修を行った者では、研修終了後に大学で勤務・研修を行う者が76.3%であった一方、臨床研修病院で研修を行った者では、28.9%であった。

一方で、大学病院で臨床研修を行ったものでは、研修終了後に市中病院で勤務・研修を行うものが12.1%であった一方、臨床研修病院で研修をおこなった者では、57.7%であった。



(2) 臨床研修修了後の研修先を選択した理由

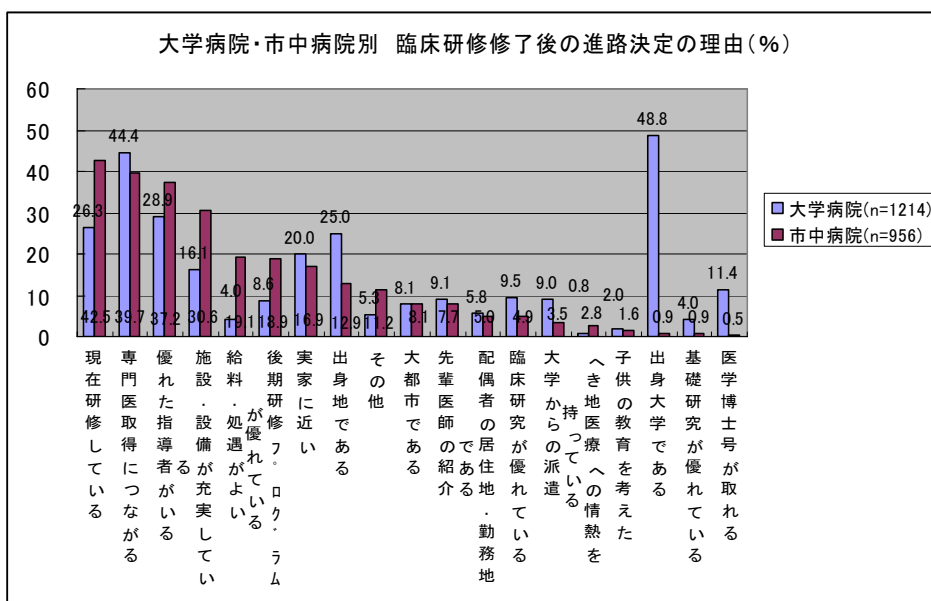
臨床研修修了後の勤務・研修先を決定した理由（複数回答）では、最も多かったのは、「専門医取得につながる」の40.4%。次いで、「優れた指導者がいる（31.2%）」、「現在研修している（31.0%）」であった。



臨床研修修了後の進路を大学病院・市中病院で分けて、勤務先・研修先の選択理由をみると、以下の通り。

大学病院（大学院進学を含まない）を進路に選んだ理由は、「出身大学であるから（48.8%）」、「専門医取得につながるから（44.4%）」が多かった。

市中病院を進路に選んだ理由は、「現在研修している（42.5%）」、「専門医取得につながる（39.7%）」が多かった。



2 専門としたい診療科について

(1) 専門としたい診療科をきめているか

臨床研修修了後に専門とする診療科を決めているかどうか尋ねたところ、86.2% (2,154 人) が診療科を決めていた。一方、12.8%は「決めていない」と回答した。

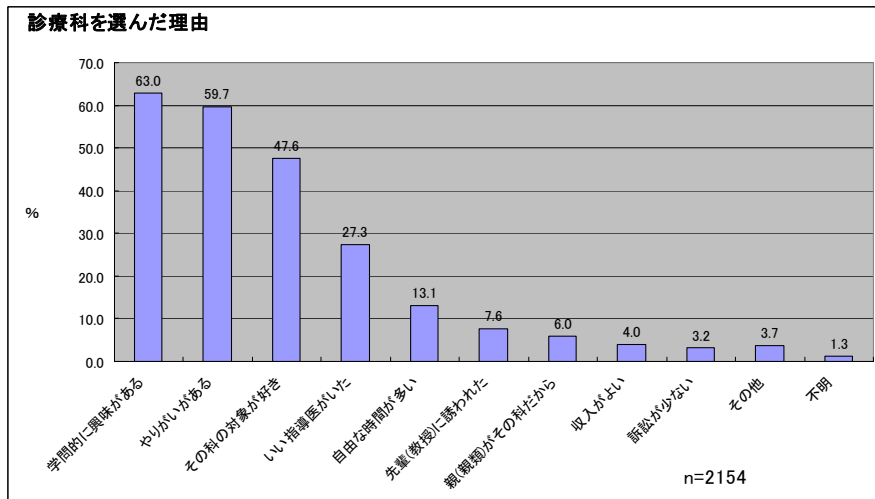
(2) 専門としたい診療科

診療科を決めていると回答した 2,154 人について、専門としたい診療科を尋ねたところ、最も多いのは内科 310 人 (14.4%) であった。続いて外科 184 人 (8.5%)、小児科 182 人 (8.4%)、整形外科 139 人 (6.5%)、麻酔科 137 人 (6.4%) となっていた。また、産婦人科は 103 人 (4.8%) であった。

診療科	人数(人)	割合(%)	診療科	人数(人)	割合(%)
内科	310	14.4%	救命救急	41	1.9%
外科	184	8.5%	脳神経外科	37	1.7%
小児科	182	8.4%	心臓血管外科	33	1.5%
整形外科	139	6.5%	総合診療科	17	0.8%
麻酔科	137	6.4%	呼吸器外科	14	0.6%
消化器科	132	6.1%	小児外科	11	0.5%
循環器科	128	5.9%	病理	11	0.5%
産婦人科	103	4.8%	リハビリテーション科	9	0.4%
精神科	98	4.5%	基礎系	8	0.4%
眼科	83	3.9%	心療内科	5	0.2%
皮膚科	83	3.9%	美容外科	5	0.2%
放射線科	66	3.1%	リウマチ科	4	0.2%
泌尿器科	60	2.8%	緩和ケア部門	4	0.2%
呼吸器科	58	2.7%	その他	42	1.9%
耳鼻咽喉科	46	2.1%	不明	17	0.8%
神経内科	45	2.1%	全体	2154	100.0%
形成外科	42	1.9%			

(3) 診療科を選んだ理由

もっとも多いのは、「学問的に興味がある」の 63.0%。次いで、「やりがいがある (59.7%)」、「その科の対象が好き (47.6%)」であった。

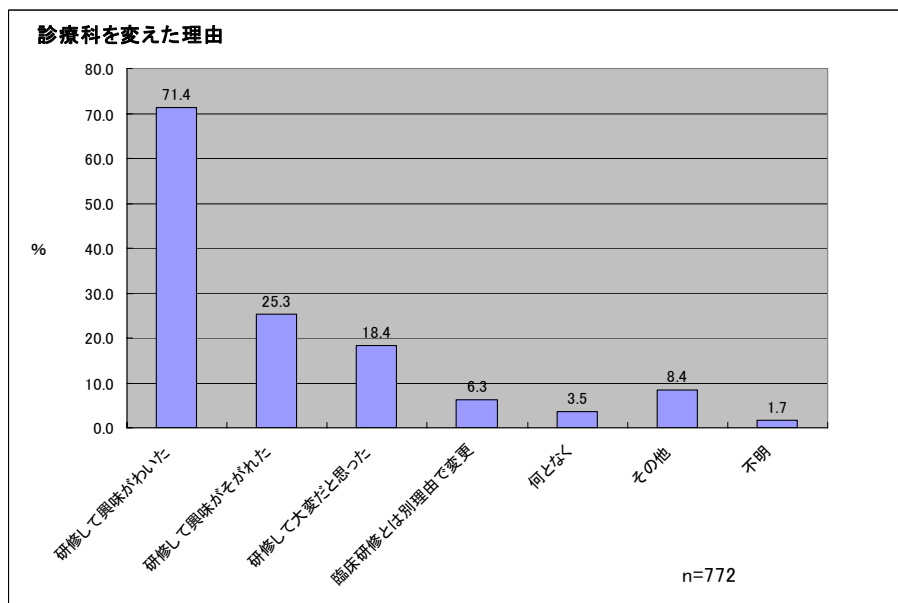


(4) 専門としたい診療科の変化と理由

診療科を決めているものに対して、臨床研修の前後で進みたい診療科が変わったかどうかを尋ねた。臨床研修の前後で進みたい診療科を変えたものは 35.8% (772 人) であった。

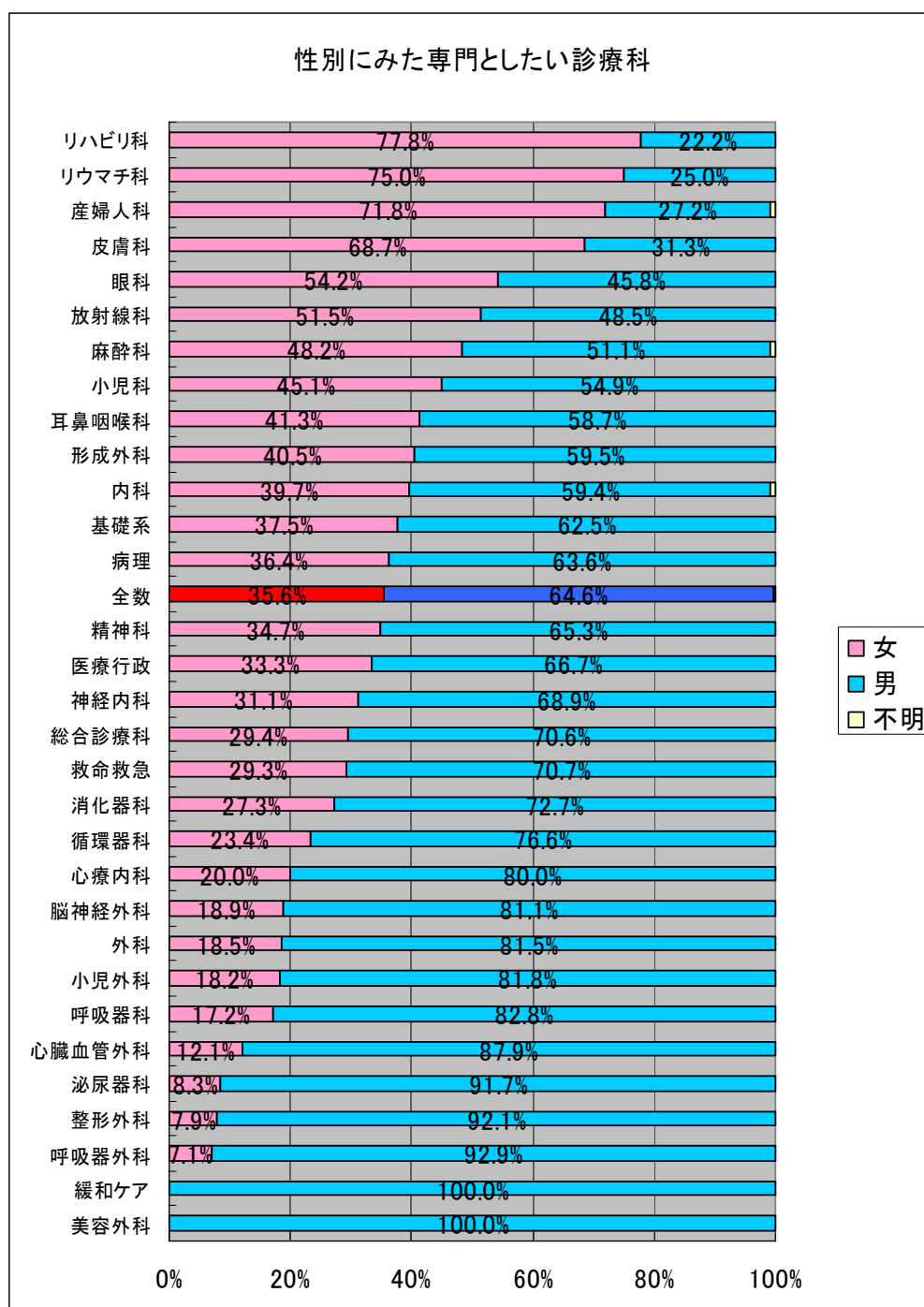
診療科を変えたものに、理由をたずねたところ、最も多かったのは、「研修して興味がわいたから」で、71.4%であった。

「研修して大変だと思った」のは 18.4%であった。



(5) 性別にみた専門としたい診療科

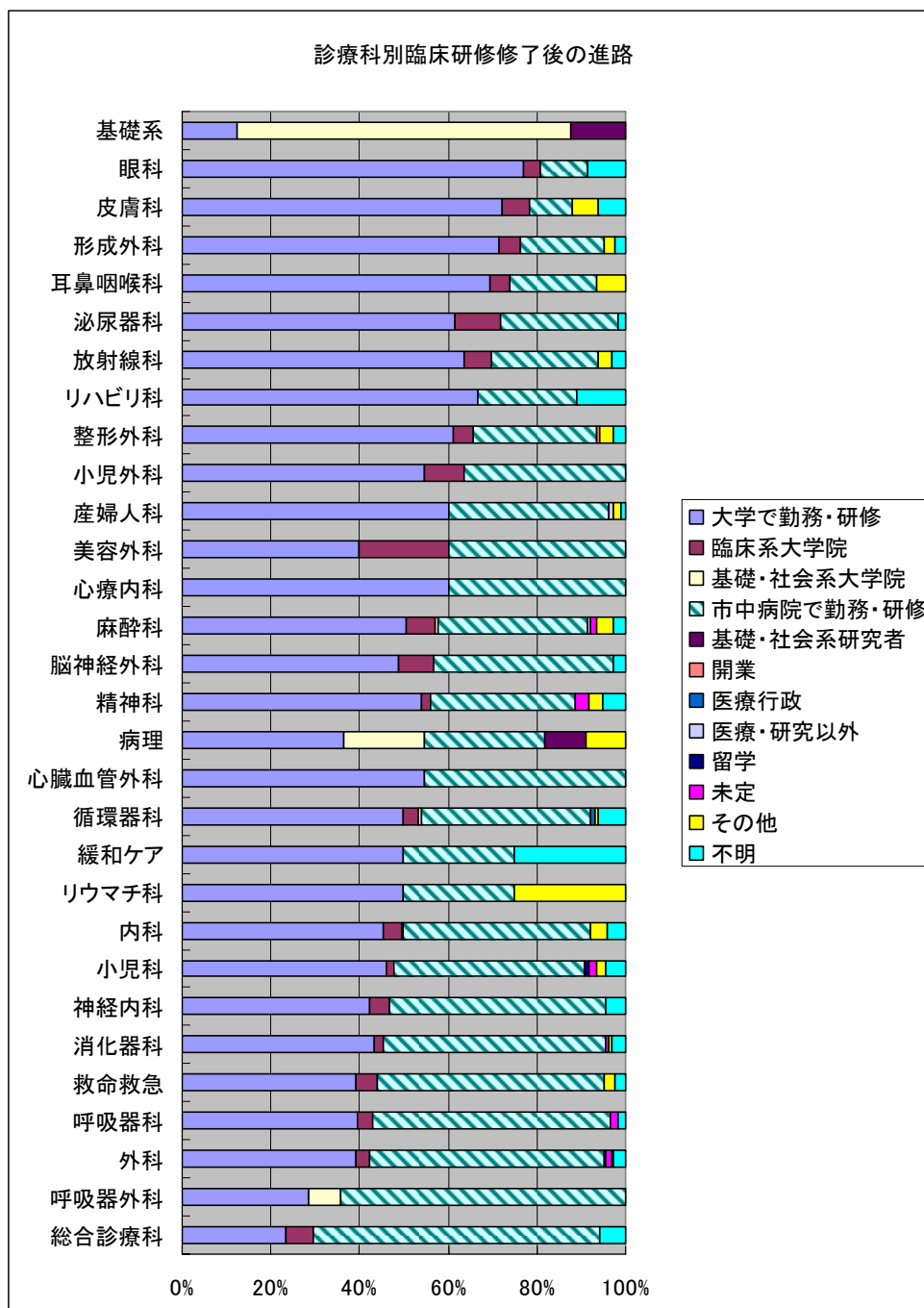
専門としたい診療科を性別に見ると、女性医師の割合が高いのは、リハビリテーション科(77.8% n=9)、リウマチ科(75.0% n=4)、産婦人科(71.8% n=103)であった。女性医師の割合が低いのは、美容外科(0.0% n=5)、緩和ケア(0.0% n=4)であった。



(6) 専門としたい診療科別にみた臨床研修終了後の進路

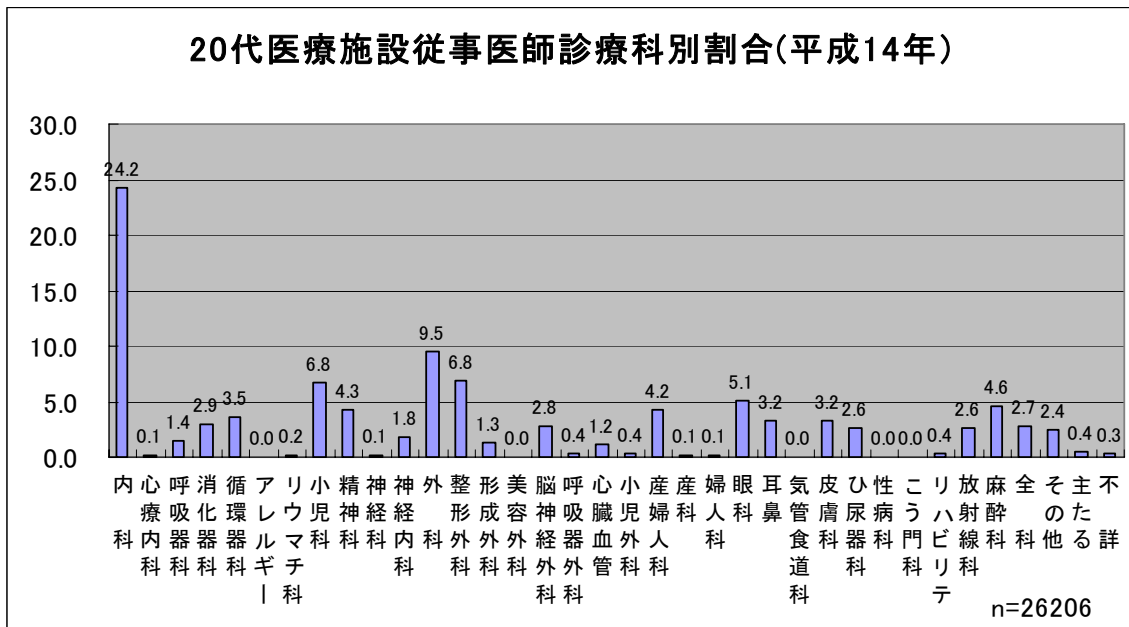
診療科別に臨床研修終了後の進路をみると、眼科(80.7%)皮膚科(78.3%)、耳鼻咽喉科(73.9%)といった診療科では大学で研修を行う(大学院への進学を含む)割合が高い

一方、総合診療科(64.7%)、呼吸器外科(64.3%)では、市中病院で勤務・研修を行う割合が高い。



※大学で勤務・研修を行う(大学院への進学を含む)割合順。

(参考)



厚生労働省大臣官房統計情報部 平成14年医師・歯科医師・薬剤師調査

※平成16年度より開始した医師臨床研修制度の影響を除くため、平成14年調査結果を提示した。